

# 薬剤師国試対策「科目の壁を越えて個別医療に挑む」



齋藤 篤  
薬理科目責任者



安澤 寛  
病態・薬物治療科目責任者



重枝 礼  
法規・制度・倫理科目責任者

医学アカデミー  
薬学ゼミナール

医療現場では各科目の知識をつなげて対応することが必要で、近年の薬剤師国家試験（国試）では、チーム医療で薬剤師が職能を発揮できるかを問う実践的な問題が多く出題されています。

国試の実践問題では基本的に、共通リード文（多くは症例や処方などがベース）に対して、各科目の問題、実務の問題の2連問が出題されます。近年は理論問題

でも科目の壁を越えて考える連問が出題されます。例えば107回国試の理論問題では、「化学」「法規・制度・倫理」「衛生」の3連問（133～135）、「薬理」「病態生理・薬物治療」の2連問は3題（156～157、159～160、165～166）出題されています。薬ゼミの科目責任者が、107回国試を引用して、他科目につながる学修方法のアプローチを紹介します。

本問も乳がんを背景とする問題ですが、リード文の「月経あり」という記載から「閉経前乳がん」と読み取ることができれば正解に近づけます。

既出問題から乳がんに関する科目横断的な知識を習得する必要があり、特に薬理の実践問題では、閉経前と閉経後での治療薬の選択をできることが重要です。前提として閉経前後の内分泌環境を理解する必要があり、生物の学修も必要となります。まず生物で内分泌について学修し、閉経前後の違いを確認できたら、そこに薬物を関連させて知識をつなげると良いでしょう。

個別医療という視点では、例えば既出問題で「HER2陰性」の症例に対する適切な治療薬の選択について問う出題があった場合に陽性時の解答を考えたり、「閉経前乳がん」の既出問題が「閉経後」だった場合に選択肢の中に解答があるかを考えたりするなど、一つの既出問題で多くのパターンに対応できるようにすると良いでしょう。

## 病態・薬物治療出題例 問286～287

### 問286～287（共通リード文）

68歳女性。54歳の頃、精神科でうつ病と診断され2年間ほどセルトラリン塩酸塩錠を服用し、回復した。10年前（58歳時）に内科でパーキンソン病と診断され、レボドパ250mg・カルビドパ配合錠（1日5錠、朝2錠、昼1錠、夕2錠）で治療を開始した。3年前（65歳時）から薬の作用時間が短縮し、服用後時間が経つと安静時振戦や運動緩慢など症状の悪化が見られた。舌突出・異常運動、じっとしていられないなどの症状は出現していなかった。服用回数を5回に分割したところ症状は落ち着いた。

### 問286（病態・薬物治療）

服用回数を分割する前に、患者に出現していた症状はどれか。1つ選べ。

- 1 アカシジア      2 急性ジストニア      3 遅発性ジスキネジア
- 4 on-off現象      5 wearing-off現象

### 問287（実務）

この患者は、その後、薬を頻回に内服することを考えると気分がすぐれ

## 薬理出題例 問263

### 問262～263（共通リード文）

48歳女性。月経あり。乳がん（ER及びPgR陽性、HER2陰性）と診断され左乳房部分切除及び腋窩リンパ節郭清術を受けた。術後化学療法として、シクロホスファミド600mg/m<sup>2</sup>、エピルビシン100mg/m<sup>2</sup>を3週毎に4サイクルを終了し、パクリタキセル80mg/m<sup>2</sup>を3週投与、1週休薬の4サイクルを開始している。卵巣機能は回復しており、術後化学療法終了後にタモキシフェンによる治療を検討中であるが、本患者においてはタモキシフェンと他剤との併用療法も選択可能である。担当薬剤師は3次資料を用いて、タモキシフェン単独療法と他剤との併用療法の有用性を調査することにした。

### 問263（薬理）

調べた結果、術後化学療法後に卵巣機能が回復している場合、タモキシフェンに薬物Aを併用することが推奨されていた。なお、薬物Aは、この患者で術後化学療法として用いられた薬物とは作用機序が異なるものであった。薬物Aの作用機序として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1 微小管タンパク質の脱重合を阻害して、細胞分裂を抑制する。
- 2 DNAの塩基対にインターカレーションして、DNA依存性RNAポリメラーゼを阻害する。
- 3 エストロゲン受容体に結合して、内因性のエストロゲンと競合し抗腫瘍作用を発揮する。
- 4 DNAをアルキル化して、DNA合成を阻害する。
- 5 持続的な性腺刺激ホルモン放出ホルモン（GnRH）受容体の刺激により脱感作を引き起して、ゴナドトロピンの遊離を抑制する。

### <問263> 解答 5

乳がんを症例とする実践問題の出題頻度は高く、101回では乳がんの発症に関与する遺伝子の問題（衛生）、102回では副作用から乳がんの治療薬を選ばせる問題（薬理）、104回では症例からHER2陰性と読み取り、適切な治療薬を選択する問題（薬理）が出題されています。103、106、107回でも乳がんに関する実践問題は複数問出題されています。

## 新たなトレンドを生み出す『美肌づくり』カンパニー

様々なグローバルパートナーと化粧品・医薬部外品の付加価値を創造するODM企業です。

Since 1912  
創業 110周年

新処方  
技術開発

新規  
素材開発

有用性  
安全性評価  
技術開発

化粧品  
法規制調査



柏原研究所  
(大阪)



出雲研究所  
(島根)



横浜研究所  
(神奈川)



スキンケアセンター  
(大阪・北浜)



蘇州研究所  
(中国)



日本コフン株式会社

会社に関する詳細は  
こちらからご覧ください。



1Day仕事体験に関する詳細は、  
リクナビ2024をご覧ください。

